

'01秋 最新トレンドのウソ・ホント カフェからDr.コパまで

爆笑問題の「日本原論」
大人気!勝手に会社案内
スタバに裏ワザあり?

サイゾー

11

the info-ninja magazine [才蔵]
november 2001 定価 690円
2001年11月1日発行 第1巻第7号(通巻32号)
表紙/高橋マリ子

ステキ♥
高橋マリ子の
艶ジャージ!

マクドナルドで違法な児童労働疑惑

米同時多発テロ勃発緊急企画

勝手に 中東案内!

アフガニスタン、パキスタン、イラク……
ビンラディン氏を生んだ背景と
アメリカの知られざる遺恨

21世紀最大のタブー

テロの元凶は 石油利権?

大手マスコミ触れられず!

猫も杓子もカフェ・ブームに喝!

よいカフェ わるいカフェ

建築家・風水師が怒りの声が……

Dr.コパを 占う!!

疑惑の牛は
まだいるモー!
狂牛病汚染がまだ広がる理由

書店員たちの本音トーク
ベストセラー本が
できるまでの裏事情
「チーズはどこへ消えた?」ほか

大手芸能プロ脱税疑惑事件
重要文書入手!
政界にもメスか?

あの人たちが「1ちゃんねる」を結成!
打倒「2ちゃんねる」?

'01秋 最新流行の ウソ8000

「スタバ」「ガーデニング」「プチ整形」……

旬なコト・モノから一部で話題のネタまで

ハッピーセットの玩具に人気が出た時期などは、ハローキティやスヌーピーの売れ行きの伸びに応じて、工員は深夜1時半から2時半まで製造ラインにつかされたときもあったという。女子の労働者が多いのにもかかわらず、現地法で定められた産児休暇を保証している工場は皆無であった。法定の週休を許しているのが10件中2件のみであり、ピーク時はすべての工場が週休の規定を守らなかった。最低賃金法に関しては、10件中4件が違反し、残りの6件も残業を加算した賃金の合計がようやく8時間労働を基準にした最低賃金をクリアしたに過ぎない。

マクドナルド側は「当社は生産現地の法律を尊重し、どのような現地法の違反も許さない」(リカー氏)と述べている。だが、マクドナルドはそれら広東省の工場に、違法発覚後も長期に及んで玩具を納めさせている。リカー氏は「今後も問題のある工場とは契約を破棄するなど、できる限りの行動をして責任を示す」と答えたが、「工場ではなくマクドナルド自身の責任については？」との問いにも同じ答えしか返ってこなかった。

多国籍企業がからむ違法行為摘発に本腰を入れず、人権より開発を優先する「開発独裁」の中国政府にも責任があるのは当然だが、マクドナルドの下請け工場に対する姿勢には、疑問を抱かざるを得ない。これでは、1997年に1億2000万米ドルを注ぎ、数にして13億個に及ぶ景品用玩具を調達したマクドナルドがあえて自社工場をもたないのは、コスト削減と同時に何か問題があったときの責任転嫁のためという見方が出るのも当然だろう。

熱帯林を伐採した牧場で つくられた牛肉

生産現地の状況を顧みないマクドナルドの姿勢は、今回のケースに始まったことではない。大手ファストフード各社は80年代にかけて、累積債務にあえぐ中南米諸国で大量の牛肉を調達してきた。熱帯林を切り崩した同諸国の土地でハンバーガー用の食用牛が放牧された。熱帯林の伐採にともない先住民、農民が土地を追われたことは、これまで多くの識者に指摘されている。

このことは、マクドナルドのビジネスに異議を唱えたイギリス人に、マクドナルド本社が襲いかかるように起こした裁判によって明らかにされた。マクドナルドは過去、現在において熱帯林地方の牛肉は使用していません」と日本マクドナルドは表明しているが、少なくともマクドナルド本社の調達責任者であったレイ・セスカ取締役(当時)は同裁判で、コスタリカ店舗が使っていた食肉工場の牛肉に関して次のように語っている。

「この牛肉は50年代から60年代はじめにかけて森林を切り払ってつくった牧場から供給された」(96年2月、ロンドンの高等裁判所にて)

またUCLAの中南米研究で知られるスーザン・ヘクト教授は同裁判で、96年7月、マクドナルドがブラジルで使っていた2つの食肉工場に言及し「クイアバ肉工場に82年までの3年間、ゴイアース肉工場に過去20年間供給された牛の大部分は、熱帯雨林地帯で牧畜されたものであることを私は確信する」と文書で証言している。

2ちゃんねるにキレた西和彦氏が掲示板設立

有料掲示板の 試みやいかに？ 1ch.tv が 巻き起こした反響

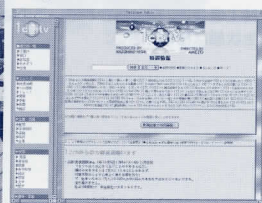
1ch.tv

アスキー創業者の西和彦氏とマルチスレッド方式掲示板の
創案者あめぞう氏らによる新規BBS。
ユーザーはコンビニなどでICカードを購入し、
アクセスする。運用試験期間は6カ月。



オフ会で1chを語る西和彦氏

いまならアクセス無料……
<http://1ch.tv/>



今

月5日、ある掲示板がオープンした。「強いて言うなら」癒し」を標榜する有料掲示板である。掲示板なら星の数ほどあるネットのなかで、このサイトの出自は世間の耳目を集めた。その名は「1ch.tv」(以下1ch)。

この掲示板が注目された理由は、本誌でも以前に報じた西和彦氏(アスキー特別顧問)による「2ちゃんねる」(以下2ch)で立ち上げられた同氏批判スレッドへの本人書き込みまで遡る。

西氏本人は1chの記者発表前に大阪で開催されたオフ会において、「1chを始めたのは言うまでもなく2chの影響」とその心境を語った。「2chは噂の

塊と煽りがとにかく面白い。しかし、自分のことを言われたら腹が立つ。誹謗中傷が激しいときは、3日間24時間体制でログを見ていた。その間に、2つの液晶モニタをナイフで壊したくらい。特に匿名性の暴力に憤りを感じた」と激しい憤怒を吐露している。

さらにネットでは有名な匿名掲示板「あめぞう」の管理者あめぞう氏も、1ch掲示板のシステム作成に協力。あめぞう氏がつくったマルチスレッドシステムは、「2chにパクられた」(西氏)とされ、因縁の対決という色合いがますます濃くなったのだ。

西氏と1chの共同運営に当たる電子

このようにマクドナルドにとどまらず、多国籍企業が生産現地国と地球の環境に与える影響は大きな問題となっており、日本など先進国の消費者の関心は高まっている。

日本消費者連盟の代表運営委員である富山洋子氏は、「景品をセットにしたファストフードのあり方そのものに問題がある。かねてから指摘されているが、食材の安全性が疑われると同時に、一定の時間が経つとハンバーガーを廃棄するというマニュアルは、一方に飢餓と絶対的貧困に苦しむ人たちがいる世界の現状をまったく無視している。中国の児童労働は、先進国の消費者のために強いられる労働者いじめの氷山の一角に過ぎない。低価格販売で業績を伸ばし続ける、日本マクドナルドにも責任はある」と語気を強める。

また、中国の玩具工場を視察した四児の母親でもある深沢三穂子さんは、「日本の子どもたちと中国で働かされていた子どもたちが置かれている立場の格差が

熱帯林を切り崩した土地で ハンバーガー用の 食用牛が放牧されたと いわれる

あまりに大きすぎるので驚愕した。中国の児童労働者の写真の隣にファストフード店に列をなす日本の子どもたちの写真を並べれば、その格差は一目瞭然のはず。日本のマスコミが報道しないこのような状況に対して、子どもたちに本当のことを伝えていきたい」と述べている。

日本マクドナルドが児童労働事件への見解を「答えられない」とするのは、日本の消費者たちへの責任も果たしていないことになる。児童労働問題の情報開示は、マクドナルドの商品を買うか否かという消費者の購入判断にも絡む問題なので。親は子によく「物を大切にしろ」というが、日本および先進国で安価な物を追求し消費するということは、低開発国の、さらに末端の人たちの労働と生活を消費することでもある。つまりその責任の一端は消費者にもあるわけだ。大袈裟といわれるかもしれないが、そんな事実があることを日本人である我々は知っておくべきだろう。

決済開発の株式会社バリュー・エクスチエンジ代表・清水康司氏は、1chの立ち上げについて次のように記者会見で語った。「これからは普通の人が普通に安心してコミュニケーションできる場をつくる」。その発言はマクロバイメント（小口決済）によるEコマースを見据えた「安全な」商用サイトを指す。

ところで、1chは2chに敵愾心を燃やすだけでなく、「打倒マスメディア」の思惑があるという。

「たとえば廃刊した『FOCUS』にはひとつくらいは読みたい記事がある。それを10円で売ればいい。1冊すべてを買わせるのではなく、写真を撮影したフリーランスのカメラマンが直接売る。ネットは中抜きだ。究極の中抜きは有名新聞・雑誌のブランドを抜き、直接情報をもつ者から発信できるようにすること」と西氏の構想は膨む。「フリーランスの悲哀については十分知っている。出版社などに中抜きされずに、代価が直接得られる1chに投稿すればいい」とも。

追い越す相手は2ちゃんねるではなく、いつしかヤフーに修正。6カ月後には、1chはヤフーに次ぐ国内第2位のアクセスを目指すという。課金については前出のバリュー・エクスチエンジほか、株式会社Eストアーなどと提携し、ICカードを利用した徴収システムを整備する。たとえば、情報発信者が提供した情報の価格を決め、ユーザーがそれを評価し、購買。ICカードはコンビニで販売。また1chはポケットカード株式会社（元マイカルグループ）と提携し、すでにICが付加されたクレジットカード・カードを保有する25万人以上のユー

ザーを取り込んでいくことを視野に入れている。

4日の記者発表の時点では、「ひとつのスレッドに編集長を立てて、情報提供者と編集長とで課金徴収した配分をシェアする」「倫理規定は普通の人が安心して訪れることのできる範囲」「6カ月以内に1日40万人の訪問者数を指す」など、運用や収益構造などについては未知の部分が多く、これまで失敗してきたネット・ビジネスの轍を踏むのではないかと、質疑する記者の姿が散見された。

運用開始直後の1chにアクセスすると、システムが重く、またいくつかの不具合が見られ、早速その点を指摘（というか痛罵）するカキコが目立った。そこはまだ運用試験中ということを目をつむるとしても、投稿の多くには「癒し」効果は期待できず、まるで2ちゃんねるの分室……。予期されたことではあるが、のっけから荒れていた。

「女性ユーザーを多く取り込みたい」「ブリック・ジャーナリズム」を謳う1chではあるが、スタート時点では当然ながらその萌芽はまだ見えていない。書き込み自由な掲示板という性格と、内容を管理するということ、そして商用での使用など、異なるベクトルが多数混在するが、はたして価値のある情報を直接発信できる「マスメディアの中抜き」インフラとなるのか、はたまた「ネタ」の域を出ないのか。2ちゃんねらうならずとも、気になる存在ではある。でも、ネーミングは公共放送と同じじゃなくて、語呂良く「24ch（にちゃん）」でもよかったのでは、西さん？